

科目名	経営学基礎論	科目分類	■専門科目群（第1グループ） □総合科目群（第2グループ）
			経済 学科 □必修 ■選択 観光 学科 □必修 ■選択
英文表記	B u s i n e s s m a — n a g e m e n n t	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年
ふりがな	えびかわ すみお	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中
担当者名	海老川 寿美夫	修得単位	2単位
授業のテーマ	経営が分かると会社経営の成功の確率が高まる		
授業概要	経営学を細部にわたって考察していくと多くの分野が派生しています。映画「スターウォーズ」のスピノフ作品のようなものですね。ここでは「基礎」という形容詞がついていますように、オーソドックスな一般理論とその理論どのように現実に応用しているのかということに焦点をあてて学習します		
到達目標	経営的センスやマネジメント能力を会得し、経営学検定試験（M検）初級レベルの基礎的経営知識の習得		
授業時間外の学習	多くの名経営者の自叙伝を読みなさい		
履修条件	授業は1回でも休まないこと。授業を受ける姿勢は厳しく要求します。この授業は自己訓練の場（よって苦痛を伴います）でもありますので、師と愛弟子との知の戦いを繰り広げます。授業計画に明示したように、CHECK POINTの提出を毎時間求めます		
授業計画			
第1回	オリエンテーション（授業を受ける心構えと諸注意等々）・・・経営学って一体何なの、経営に10のジャンルあり CHECK POINT、社長のノート		
第2回	経営戦略とは、会社の基本的な方向付け CHECK POINT		
第3回	マーケティング；一体どんなことをすれば、マーケティングができるの CHECK POINT		
第4回	B to Bの領域 CHECK POINT、社長のノート		
第5回	マーケティング・リサーチって何 CHECK POINT、社長のノート		
第6回	生産管理（品質・納期・コストについて） CHECK POINT		
第7回	ロジスティクス（モノの流れを管理する） CHECK POINT、社長のノート		
第8回	組織と人事管理Ⅰ		
第9回	組織と人事管理Ⅱ		
第10回	リーダーシップⅠ		
第11回	リーダーシップⅡ		
第12回	財務会計と管理会計Ⅰ		
第13回	財務会計と管理会計Ⅱ		
第14回	財務；会社の経営で財務は実際にどの様に機能しているか		
第15回	総まとめ		
第16回	定期試験		
テキスト	特に使用しない。授業資料を適宜配布し、ノート・テイキングに精を出してもらいます		
参考文献・資料	入門書が数多くあります。図書館や本屋に行き手に取って確かめてください		
成績評価の方法	出席管理、上記CHECK POINTのノート提出での評価並びに定期試験		
オフィスアワー	研究室（いつでも）		

学生への メッセージ	学ぶ姿勢と力がある学生を歓迎しますし、ただ授業を受身で聴講してはいけません。対話的に授業にコミットしようとする学生を希望します。単位を取得するためのだけの楽勝科目出はありません。打たれ強く、生き抜くための修練の教室です。
---------------	--

科目名	簿記入門 I (前期)	科目分類	■専門科目群 (第1グループ) □総合科目群 (第2グループ)	
			経済学科	□必修 ■選択
			学科	□必修 □選択
英文表記	An Introduction to Bookkeeping I	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年	
ふりがな	クニイノリオ	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	國井法夫	修得単位	4 単位	
授業のテーマ	日商簿記検定試験3級に合格する。			
授業概要	3級の範囲をわかりやすく説明する。			
到達目標	日商簿記3級合格			
授業時間外の学習	宿題を出しますので、必ずやってくること。点検します。			
履修条件	欠席をしない。			
授業計画				
第1回	簿記の意味・目的・種類	第17回	売掛金と買掛金(2)	
第2回	簿記の基礎概念(1)	第18回	その他の債権と債務(1)	
第3回	簿記の基礎概念(2)	第19回	その他の債権と債務(2)	
第4回	取引と勘定と仕訳(1)	第20回	手形(1)	
第5回	取引と勘定と仕訳(2)	第21回	手形(2)	
第6回	帳簿の記入	第22回	有価証券・固定資産	
第7回	決算と財務諸表(1)	第23回	減価償却	
第8回	決算と財務諸表(2)	第24回	資本金と引出金	
第9回	現金預金取引(1)	第25回	収益と費用	
第10回	確認小テスト	第26回	税金、帳簿と伝票	
第11回	現金預金取引(2)	第27回	決算と財務諸表	
第12回	現金預金取引(3)	第28回	決算と財務諸表(3)	
第13回	商品売買(1)	第29回	決算と財務諸表(4)	
第14回	商品売買(2)	第30回	模擬試験	
第15回	模擬試験	第31回	定期試験	
第16回	売掛金と買掛金(1)			
テキスト	滝澤みなみ著『簿記の教科書日商3級』TAC			
参考文献・資料	演習用プリント			
成績評価の方法	テスト結果、出席、授業態度等総合的に評価する。			
オフィスアワー	原則として4時間目			
学生へのメッセージ	休まないこと。欠席が成績に直結します。			

科目名	ミクロ経済学Ⅱ	科目分類	■専門科目群（第1グループ） □総合科目群（第2グループ）
			経済学科 □必修 ■選択 学科 □必修 □選択
英文表記	MicroeconomicsⅡ	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年
ふりがな	やまもと しゅん	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中
担当者名	山本 俊	修得単位	2単位
授業のテーマ	ミクロ経済学における生産理論及び市場理論を中心に学習し、発展的な学習に必要な基盤を養成する。経済学的な合理性について理解し、経済学の視点を学ぶ。		
授業概要	ミクロ経済学Ⅱでは、生産理論を重点的に学習します。表面的理解だけでなく、諸理論の導出についても、丁寧に解説することで、到達水準を低下させないように心がける。		
到達目標	この授業では、ミクロ経済理論の学習を通じて「考える力」の涵養を目指します。さらに、期末試験では、公務員の専門試験問題も出題するなど、基本的な受験力の向上も目指す。		
授業時間外の学習	定期的に確認問題を配布するので、解答した後に提出して欲しい。		
履修条件	入門経済学やミクロ経済学Ⅰ、マクロ経済学Ⅰ・Ⅱを履修済み、または同時に履修していることが望ましい。		
授業計画	講義資料と教科書を併用して授業を進める。		
第1回	テーマ：ガイダンス ミクロ経済学の全体像		
第2回	テーマ：生産理論① 生産要素と生産技術。「技術を可視化する。機械一台あたりの労働者数は？」		
第3回	テーマ：生産理論② 等量曲線。「100tを生産するには、何通りの方法もある」		
第4回	テーマ：生産理論③ 技術的限界代替率とその逓減。「生産の機械化で労働者はどれくらい削減できるか」		
第5回	テーマ：生産理論④ 生産関数と規模に関する収穫。「等量曲線は等高線！！」		
第6回	テーマ：生産理論⑤ 限界生産物とその逓減。「機械だけ、労働者だけの拡大は、生産効率を低下させる！」		
第7回	テーマ：生産理論⑥ 等費用曲線。「1億円で生産可能な製品Aと製品Bの数量の組み合わせを図示しよう」		
第8回	テーマ：生産理論⑦ 費用最小化投入ベクトル。「等費用曲線と等量曲線の接点を持つ意味とは？」		
第9回	テーマ：生産理論⑧ 費用関数。「ある生産量を最も低コストな方法で生産する場合、いくらでできるか？」		
第10回	テーマ：生産理論⑨ 限界費用。「生産を1単位追加した場合、費用はどれだけ増加するのか？」		
第11回	テーマ：生産理論⑩ 平均費用と規模の経済。「生産1単位当たりの費用はいくらか？それは生産を拡大すると？」		
第12回	テーマ：生産理論⑪ 費用、限界費用、平均費用、平均可変費用の関係。「図示すると分かることがいっぱいある」		
第13回	テーマ：生産理論⑫ 損益分岐点、操業停止点と供給関数。「損失が出て、固定費用を少しでも回収しよう」		
第14回	テーマ：市場と競争① 完全競争市場と利潤最大化条件。「生産者はプライステイカー。最適な生産量を選択する」		
第15回	テーマ：市場と競争② 不完全競争市場と利潤最大化条件。「生産者は価格支配力を持つ。逆需要関数の登場！！」		
第16回	定期試験		
テキスト	小林弘明ほか『入門ミクロ経済学』実教出版、2008年		
参考文献・資料	ロバート・ドーファン『価格の理論』東洋経済、1965年（考え方が詳しい）		
成績評価の方法	期末試験60%、課題（確認問題）30%、コメントシート10%の合計を基に評価する。 優:80%以上、良:70%以上、可:60%以上、不可:60%未満 試験については努力が報われるような出題を心がける。課題は必ず提出すること。		
オフィスアワー	月・水・金曜日の5限をオフィスアワーとする。ただし、研究室に在室中はいつでも質問に応じる。		
学生へのメッセージ	ミクロ経済学はマクロ経済学とともに、経済学の基盤を形成している。ミクロ経済学を学ぶことで、我々の合理性を再認識し、自らの意思決定を見つめ直して欲しい。		

科目名	国際経済学 I	科目分類	■専門科目群 (第1グループ) □総合科目群 (第2グループ)	
			学科	経済学部
			学科	経済学科
英文表記	International Economics I	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年	
ふりがな	まえだ なおや	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	前田 直哉	修得単位	2単位	
授業のテーマ	国際収支と為替レート			
授業概要	経済のグローバルゼーションとはどのようなものなのか。端的に言えば、ヒト・モノ・カネがグローバルに移動して、世界レベルに様々な変動を引き起こす現象である。この現象を学問的に体系化したのが国際経済学である。本講義の目的は、国際収支と為替レートの基礎理論を学ぶことにある。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・国民経済計算、国際収支、対外資産負債残高の読み方・見方を理解できるようになる。 ・為替変動が経常収支にどのような影響を与えるかを理解できるようになる。 ・実物的要因、貨幣的要因がそれぞれ経常収支と為替相場にどのような影響を与えるかを理解できるようになる。 			
授業時間外の学習	講義前に予習、講義後に復習を必ず行うこと。			
履修条件	マクロ経済学 I、ミクロ経済学 I を履修していることが望ましい。			
授業計画				
第1回	ガイダンス			
第2回	閉鎖経済と開放経済			
第3回	国民経済計算と国際収支			
第4回	国際収支表の見方①：国際収支統計の項目と分類			
第5回	国際収支表の見方②：経常取引と複式計上			
第6回	国際収支表の見方③：資本取引と複式計上			
第7回	日本の国際収支と対外資産負債残高			
第8回	アメリカの国際収支と対外資産負債残高			
第9回	中間試験			
第10回	為替レートと経常収支①：名目為替相場、実質為替相場、実効為替相場			
第11回	為替レートと経常収支②：弾力性アプローチ			
第12回	為替レートと経常収支③：Jカーブ効果			
第13回	為替レートと経常収支④：為替相場のパススルーと企業の PTM 行動			
第14回	為替レートと経常収支⑤：アブソープション・アプローチ、マネタリー・アプローチ			
第15回	為替レートと経常収支⑥：IS バランス・アプローチ			
第16回	定期試験			
テキスト	上川孝夫・藤田誠一[編](2012)『現代国際金融論[第4版]』有斐閣を薦める。			
参考文献・資料	講義中に適宜、紹介する。			
成績評価の方法	【定期試験(40%)、中間試験(30%)、平常点(30%)】 上記評価項目を基にして、総合的に成績評価を判断する。 ①出席回数が規定に満たない場合、原則として評価の対象としない。 ②出席確認時に不在だった場合、原則としてその回は欠席とする。 ③講義中に無許可で退出した場合、欠席扱いとする。			

	<p>④就職活動や公共交通機関の運休などでやむをえない事情により欠席する場合、証明書とともに、欠席届を提出したときにのみ考慮の対象とする。</p> <p>⑤講義への理解を確認するため、講義中に小テストを行い、その結果は平常点をカウントする上での材料とする。</p>
成績評価の基準	秀(90～100点)、優(80～89点)、良(70～79点)、可(60～69点)、不可(0～59点)
オフィスアワー	<p>火曜日 9:00～10:30</p> <p>金曜日 13:00～14:30</p> <p>※これ以外の時間帯は必ず事前に予約すること。</p>
学生へのメッセージ	講義の進め方と成績評価方法については、初回のガイダンスで詳しく説明する。なお、講義進行を著しく妨げるような行為や不良な受講態度に対しては、厳格な処置を取る。

科目名	マーケティング 基礎論	科目分類	■専門科目群 (第1グループ) □総合科目群 (第2グループ)
			経済学科 □必修 ■選択
			学科 □必修 □選択
英文表記	Marketing Basics	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年
ふりがな	すずき ひであき	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中
担当者名	鈴木 秀顕	修得単位	2単位
授業のテーマ	マーケティングの基礎を学びます。		
授業概要	マーケティングは、売れ続ける仕組みを作ることであり、私たちが住むこの社会においては、大切な役割を果たす考え方です。本講義では、マーケティングの基礎的知識から、実践的取り組みに至るまでを学んでいきます。		
到達目標	マーケティングに関する基礎知識の獲得		
授業時間外の学習	テーマに関する予習をしてから参加するようにしてください。		
履修条件	現代経済入門、流通論入門の単位を修得していることが望ましい。		
授業計画			
第1回	ガイダンス (マーケティングとは)		
第2回	マーケティングの選択肢		
第3回	マーケティングと戦略の違い		
第4回	マーケティング戦略		
第5回	顧客志向マーケティング		
第6回	マーケティング環境分析① (PEST)		
第7回	マーケティング環境分析② (バリューチェーン)		
第8回	マーケティング環境分析③ (3C)		
第9回	マーケティング環境分析④ (SWOT)		
第10回	ターゲット市場の選定		
第11回	マーケティング・ミックスの最適化① (製品戦略)		
第12回	マーケティング・ミックスの最適化② (価格戦略)		
第13回	マーケティング・ミックスの最適化③ (流通戦略)		
第14回	マーケティングの実践①		
第15回	マーケティングの実践②		
第16回	定期試験		

テキスト	池上重輔『マーケティングの実践教科書』（日本能率協会マネジメントセンター）
参考文献・資料	石井淳蔵／廣田章光『1からのマーケティング』（中央経済社）
成績評価の方法	<p>【小テスト(30%)、レポート(20%)、定期試験(50%)】</p> <p>上記評価項目を基にして総合的に判断します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席回数が規定に満たない場合は原則として評価の対象としません。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・就職活動や公共交通機関の運休等でやむを得ず欠席する場合は、エビデンスと共に欠席届を提出した場合のみ考慮します。 ・授業の理解、および予習復習が充分であることを確認するため、授業中に小テストを行います。 ・レポート課題は授業内に指示します。
オフィスアワー	<p>毎週火曜日 13:00～14:30・金曜日 14:40～16:10</p> <p>※これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。</p>
学生へのメッセージ	<p>流通、経営、すべてにおいて必要なマーケティングの基礎知識を取り上げていきます。</p> <p>この講義を修得すれば、社会のものの流れが見えてきます。流通業界を中心に、販売に携わりたい多くの学生の受講を期待します。</p>

科目名	経済学史Ⅱ	科目分類	■専門科目群（第1グループ） □総合科目群（第2グループ）
			経済学科 □必修 ■選択 □必修 □選択
英文表記	The History of Economic Thoughts Ⅱ	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年
ふりがな	しまだ こうや	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中
担当者名	嶋田 耕也	修得単位	2単位
授業のテーマ	ケインズ理論の革新点		
授業概要	ケインズによって現代の経済政策、および管理通貨制度の本質を、シュンペーターによって資本主義発展のダイナミズムを、レオンチェフによって産業間の結びつきを理解しよう。		
到達目標	ケインズを中心に現代経済学を理解する。		
授業時間外の学習	ケインズ、シュンペーター、レオンチェフそして新古典派を理解するためには、私たちの周りの現実に関心を持たなければなりません。		
履修条件	経済学史Ⅰを履修していることが望ましい。		
授業計画			
第1回	ケインズとその時代		
第2回	ケインズ理論1		
第3回	ケインズ理論2		
第4回	ケインズ理論3		
第5回	ケインズ理論4		
第6回	シュンペーターの経済理論1		
第7回	シュンペーターの経済理論2		
第8回	ケネー、マルクス、そしてレオンチェフ		
第9回	産業連関論の概要		
第10回	行列式1		
第11回	行列式2		
第12回	産業連関論1		
第13回	産業連関論2		
第14回	産業連関論3		
第15回	経済学の歴史のまとめ		
第16回	定期試験		
テキスト	中村達也・新村聡・八木紀一郎・井上義朗(2001)『経済学の歴史』有斐閣を薦める。		
参考文献・資料	講義中に適宜、紹介する。		
成績評価の方法	定期試験(70%)、レポート提出(30%)		
オフィスアワー	水曜日に来訪してください。		
学生へのメッセージ	20、21世紀は親ケインズか反ケインズかの時代です。		

科目名	現代ファイナンス論Ⅰ	科目分類	■専門科目群（第1グループ） □総合科目群（第2グループ）	
			経済学科	□必修 ■選択
			学科	□必修 □選択
英文表記	Theory of Modern Finance I	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年	
ふりがな	やまもと しゅん	開講期間	■前期□後期 □通年 □集中	
担当者名	山本 俊	修得単位	2単位	
授業のテーマ	金融の基礎理論と金融論の視点を学ぶ。			
授業概要	この授業では主に金融の仕組み、基本ツール、金融市場、リスクの基本を学習する。つまり、各論を学ぶ「現代ファイナンス論Ⅱ」や「金融機関論」の基礎科目として位置付けることができる。			
到達目標	ファイナンスの基本を身につけ、現実の金融取引の仕組みや金融の基礎理論を理解できるようになること。ファイナンスの主體的学習を可能にすること。			
授業時間外の学習	定期的に確認問題を配布するので、解答した後に提出して欲しい。			
履修条件	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱとマクロ経済学Ⅰ・Ⅱを履修済みか、または同時履修して欲しい。			
授業計画	講義資料と教科書を併用して授業を進める。			
第1回	テーマ：金融の仕組み① 金融の主体と資金循環、金融の方式と機能			
第2回	テーマ：金融の仕組み② 金融仲介と金融機関、貨幣の機能			
第3回	テーマ：金融の基本的な考え方① 利子率（名目・実質）、フィッシャー仮説			
第4回	テーマ：金融の基本的な考え方② 貨幣の時間価値、2つの投資の評価方法の基礎			
第5回	テーマ：金融の基本的な考え方③ 割引債の利回りと価格			
第6回	テーマ：金融の基本的な考え方④ 利付債の利回りと価格			
第7回	テーマ：金融の基本的な考え方⑤ 金利の期間構造理論の考え方			
第8回	テーマ：金融の基本的な考え方⑥ 金利の期間構造理論とイールドカーブ			
第9回	テーマ：金融の基本的な考え方⑦ 株価の決定理論			
第10回	テーマ：金融の基本的な考え方⑧ 配当割引モデルと株価管理			
第11回	テーマ：企業金融の基本① 企業の投資行動			
第12回	テーマ：企業金融の基本② MM理論の考え方			
第13回	テーマ：企業金融の基本③ 資本市場の不完全性とMM理論			
第14回	テーマ：リスクの基本① 期待収益率と標準偏差			
第15回	テーマ：リスクの基本② ポートフォリオと相関係数			
第16回	定期試験			
テキスト	晝間文彦『基礎コース金融論』（第3版）、2011年			
参考文献・資料	ポディ・マートン『現代ファイナンス論』（原著第2版）ピアソン桐原、2011年（著者はノーベル賞受賞者）			
成績評価の方法	期末試験60%、課題（確認問題）30%、コメントシート10%の合計を基に評価する。 優:80%以上、良:70%以上、可:60%以上、不可:60%未満 試験については努力が報われるような出題を心がける。課題は必ず提出すること。			
オフィスアワー	月・水・金曜日の5限をオフィスアワーとする。ただし、研究室に在室中はいつでも質問に応じる。			
学生へのメッセージ	どのような分野で活躍するにも金融の基本事項は必須であるので、多くの受講者を歓迎する。この授業では、新しい知識を習得すること以上に、考えるプロセスを重視する。			

科目名	経済政策学 (経済政策のしくみ)	科目分類	■専門科目群 (第1グループ) □総合科目群 (第2グループ)
			経済学科 □必修 ■選択 □必修 □選択
英文表記	Policy of Economy	開講年次	□1年 □2年 ■3年 ■4年
ふりがな	のぐち ひでゆき	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中
担当者名	野口 秀行	修得単位	2 単位
授業のテーマ	日本経済の再生		
授業概要	アベノミクスにより日本経済の再生は可能なのか、世界経済の構造変化とは何なのか、経済のダイナミズムを学びます。		
到達目標	日経新聞が理解できる		
授業時間外の学習	予習復習の徹底、事前配布のプリントに目を通しておくこと		
履修条件	経済の基礎的な知識を有すること		
授業計画			
第1回	アベノミクスの本質とは何か		
第2回	リーマンショックとバブル崩壊		
第3回	金融危機を招いたCDSとその仕組み～流動性の罠とは		
第4回	円高と主要産業の国際競争力の喪失		
第5回	G20による世界的な景気刺激策採用と新興国金融市場への資金流入		
第6回	BRICsの勃興と没落		
第7回	原油価格等資源価格の		
第8回	リーマンショック後の世界経済のパラダイムシフト		
第9回	日本経済の産業構造の変革とイノベーション		
第10回	欧州への難民流入とイスラム社会		
第11回	米国の出口戦略と新興国の金融市場		
第12回	アベノミクス～成長戦略とTPP		
第13回	アベノミクス～科学技術政策		
第14回	アベノミクス～消費税引き上げ		
第15回	世界経済の行方		
第16回	期末試験		
テキスト	プリント配布		
参考文献・資料	追って連絡します		
成績評価の方法	期中のレポートおよび期末試験の結果を総合して判断します。		
オフィスアワー	火曜日午後及び水曜日全日		
学生へのメッセージ	経済を面白く楽しく学びます		

科目名	コミュニティビジネス論 (コミュニティ・ビジネス)	科目分類	■専門科目群 (第1グループ) □総合科目群 (第2グループ)	
			経済学科	□必修 ■選択
			学科	□必修 □選択
英文表記	Community Business	開講年次	□1年 ■2年 ■3年 ■4年	
ふりがな	のぐち ひでゆき	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	野口 秀行	修得単位	2 単位	
授業のテーマ	コミュニティ・ビジネスが地域を活性化する			
授業概要	コミュニティ・ビジネスの目的は、住民主体のスモールビジネスを導入し、コミュニティに存在する様々な問題の解決に貢献することにあるが、それはボランティアと企業の中間的な領域に位置しているものであり、地域社会のネットワークに支えられて成立しうるものでもある。各地で芽吹きつつあるコミュニティ・ビジネスは、バランスの取れた経済社会の発展を支えるという側面からみても、社会的な意義は大きいといえる。			
到達目標	オールタナティブ・エコノミーの最先端を学ぶ			
授業時間外の学習	予習復習の徹底、事前配布のプリントに目を通しておくこと			
履修条件	地域に関心を有していること			
授業計画				
第1回	コミュニティ・ビジネスとは			
第2回	もう一つの経済 (ノン・プロフィット・エコノミー) が果たす役割			
第3回	NPOとコミュニティ・ビジネス～地域を変える力とは			
第4回	欧米におけるコミュニティ・ビジネスの事例～豊かさを実感できる社会の構築			
第5回	我が国におけるコミュニティ・ビジネスの事例～いま地方が面白い!			
第6回	コミュニティビジネス・スモールビジネス・ソーシャルビジネス			
第7回	我が国における起業環境とベンチャー・ファンド～PEF及びBOFを中心に			
第8回	CSR・SRIと人権～ナイキのシュエット・ショップ			
第9回	TPPと中小企業のグローバル化			
第10回	地域金融論～欧米の多様なコミュニティ・ファイナンスと我が国のNPOバンク			
第11回	ソーシャル・インパクト投資、ダブル・ボトム・ライン (DBL) ファンド			
第12回	我が国におけるコミュニティ・ファイナンスの事例			
第13回	ソーシャルビジネスと老舗企業～近江商人の三方芳			
第14回	シェアリング・エコノミー～ライドシェア、民泊			
第15回	地方創生法におけるコミュニティ・ビジネスの役割と今後			
第16回	期末試験			
テキスト	プリント配布			
参考文献・資料	追って連絡します			
成績評価の方法	期中のレポートおよび期末試験の結果を総合して判断します。			
オフィスアワー	火曜日午後及び水曜日全日			
学生へのメッセージ	地方創生において一段と注目されるコミュニティ・ビジネスを学びます。			

科目名	国際金融論	科目分類	■専門科目群 (第1グループ) □総合科目群 (第2グループ)	
			学科	経済学部
			学科	経済学科
英文表記	International Finance	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年	
ふりがな	まえだ なおや	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	前田 直哉	修得単位	2単位	
授業のテーマ	国際金融と外国為替			
授業概要	21世紀に入り、金融のグローバル化が加速度的に進み、劇的な変化を見せている。このような国際金融の現状を理解するためには、国際金融の基礎理論を学ぶことが必要不可欠である。本講義の目的は、国際金融と外国為替の基礎理論を理解することにある。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・外国為替市場でどのような取引が行われ、為替相場がどのように建てられているかを理解できるようになる。 ・為替相場の決定に実体的要因、貨幣的要因の変動がそれぞれどのように関わっているかを理解できるようになる。 ・為替相場に変動させることができるかという意味での経済政策の有効性の有無について理解できるようになる。 			
授業時間外の学習	講義前に予習、講義後に復習を必ず行うこと。			
履修条件	マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。			
授業計画				
第1回	外国為替と国際決済			
第2回	外国為替取引と為替相場①：外国為替市場の構成、銀行間相場と対顧客相場、基準相場、クロス相場、裁定相場			
第3回	外国為替取引と為替相場②：直物取引と先物取引、アウトライト取引とスワップ取引			
第4回	金利裁定取引①：直物相場、スワップレート(直先スプレッド)、先物相場			
第5回	金利裁定取引②：カバー付き金利裁定取引			
第6回	為替相場の決定理論①：絶対的購買力平価と相対的購買力平価			
第7回	為替相場の決定理論②：バラッサ＝サミュエルソン効果			
第8回	為替相場の決定理論③：カバーなし金利平価と内外資産の完全代替性			
第9回	中間試験			
第10回	為替相場の決定理論④：外国為替市場と貨幣市場の同時均衡			
第11回	為替相場の決定理論⑤：オーバーシュート・モデル			
第12回	為替相場の決定理論⑥：内外資産の不完全代替性とリスクプレミアム(1)			
第13回	為替相場の決定理論⑦：内外資産の不完全代替性とリスクプレミアム(2)			
第14回	為替相場の決定理論⑧：ポートフォリオ・バランス・アプローチ(1)			
第15回	為替相場の決定理論⑨：ポートフォリオ・バランス・アプローチ(2)			
第16回	定期試験			
テキスト	上川孝夫・藤田誠一[編](2012)『現代国際金融論[第4版]』有斐閣を薦める。			
参考文献・資料	講義中に適宜、紹介する。			
成績評価の方法	【定期試験(40%)、中間試験(30%)、平常点(30%)】 上記評価項目を基にして、総合的に成績評価を判断する。 ①出席回数が規定に満たない場合、原則として評価の対象としない。			

	<p>②出席確認時に不在だった場合、原則としてその回は欠席とする。</p> <p>③講義中に無許可で退出した場合、欠席扱いとする。</p> <p>④就職活動や公共交通機関の運休などでやむをえない事情により欠席する場合、証明書とともに、欠席届を提出したときにのみ考慮の対象とする。</p> <p>⑤講義への理解を確認するため、講義中に小テストを行い、その結果は平常点をカウントする上での材料とする。</p>
成績評価の基準	秀(90～100点)、優(80～89点)、良(70～79点)、可(60～69点)、不可(0～59点)
オフィスアワー	<p>火曜日 9:00～10:30</p> <p>金曜日 13:00～14:30</p> <p>※これ以外の時間帯は必ず事前に予約すること。</p>
学生へのメッセージ	講義の進め方と成績評価方法については、初回のガイダンスで詳しく説明する。なお、講義進行を著しく妨げるような行為や不良な受講態度に対しては、厳格な処置を取る。

科目名	経営戦略論	科目分類	■専門科目群（第1グループ） □総合科目群（第2グループ）
			経済学科 □必修 ■選択
			学科 □必修 □選択
英文表記	Corporate Strategy	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年
ふりがな	い ちよん みん	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中
担当者名	李 廷 珉	修得単位	2 単位
授業のテーマ	グローバル化と戦略（型）経営		
授業概要	経営史家として有名なチャンドラーによれば、戦略（strategy：ストラテジー）とは、「長期的な目標を定め、それをいかに達成するかという方針」のことです。したがって、戦略は何も取締役などの経営陣や経営企画部などの管理担当者だけに必要なものではなく、全社的に意識を高めるといふ点であらゆる部署の担当者にも必ず必要なものです。本講義では、こうした経営戦略の理論的かつ実践的側面の両義性の理解を強調したく、企業業績を産業構造的要因や競争環境要因に求め、経営戦略論の研究の発展に貢献したポーター教授の業績をわかりやすく解説します。		
到達目標	戦略的思考を身につけ就職活動に役立てる		
授業時間外の学習	1. 新聞、その他の経済誌、何れかのうち、一つを選び、継続して読んでいく習慣をつけて下さい。 2. 暇を見つけては、図書館へ行き情報を収集し、先生方の研究室へ行き議論を仕掛けて下さい。		
履修条件	日本経済論、経営学基礎論、経営管理論、人的資源管理論を受講することが望ましい。		
授業計画			
第1回	イントロダクション		
第2回	戦略の理解		
第3回	経営環境の理解－SWOT分析－		
第4回	経営環境の理解－外部環境の分析－		
第5回	経営環境の理解－内部環境の分析－		
第6回	事業ドメインの確立		
第7回	成長戦略－製品・市場マトリックス		
第8回	成長戦略－プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント（PPM）		
第9回	競争戦略－ポーター教授と競争戦略の意義－		
第10回	競争戦略－業界分析（five forces analysis）		
第11回	競争戦略－3つの基本戦略－		
第12回	競争戦略－価値連鎖（value chain）と戦略的ポジションニング－		
第13回	競争戦略－経営戦略研究の最近の動向について（RBVの考え方との関連で）－		
第14回	戦略実行とコントロール		
第15回	復習・総括		
第16回	定期試験		
テキスト	講義資料を配布する		
参考文献・資料	石井淳蔵・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎『経営戦略論』有斐閣、2008年。 李廷珉「韓国サムスン電子の東アジア戦略と日本的経営」、林正樹編著『現代日本企業の競争力－日本的経営の行方－』ミネルヴァ書房、2011年。 Ian Marcouse, Denry Machin, Philippa Anderson, Nigel Watson, Alexandra Black, <i>The Business Book</i> Dorling Kindersley, 2014.		
成績評価の方法	【出席状況（25%）、レポート（25%）、定期試験（50%）】		

	上記評価項目を基にして総合的に評価する。
オフィスアワー	毎週火曜日 13:00～14:30
学生への メッセージ	Start small, think big!

科目名	憲法入門	科目分類	■専門科目群 (第1グループ) □総合科目群 (第2グループ)
			法律学科 ■必修 □選択 学科 □必修 □選択
英文表記	Introduction to constitution	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年
ふりがな	さとう ひろし	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中
担当者名	佐藤 寛稔	修得単位	2単位
授業のテーマ	憲法学の概要を学んだ上で基本的な概念を使って憲法問題を考える思考力を養います。		
授業概要	憲法は、国家の最高法規です。国の統治の基本構造は憲法によって定まっています。しかし、それ以上に重要なのは、憲法が国民によって作られ、そして国家に対して向けられたルールであるということです。この視点の有無は憲法の「見え方」を大きく変えます。本講義ではこの国民が国家に課したルールであるという点を強調して様々な憲法問題を分析していきます。		
到達目標	憲法学の思考様式の修得を目標にします。単なる感想や個人的な政治的見解の吐露にとどまらない憲法を論じ方を身につけるようにします。		
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回シラバスをみて、その回に扱う内容を確認し教科書の該当箇所を最低2回読んできてください。 ・最近では憲法にかかわる話題が多くなっています。政治的な主義主張に振り回されないように注意しながら、新聞等をよく読むようにしてください。 		
履修条件	大学は「学ぶ場」です。その点を十分留意した整容、言動等を心がけられる学生のための履修を認めます。		
授業計画			
第1回	ガイダンス 憲法とは何か？		
第2回	日本の安全保障と憲法9条 集団的自衛権行使容認に至るまでの憲法解釈の変遷！		
第3回	基本的人権を尊重するとは何を意味するか？自由はどこまで可能か？		
第4回	平等とは何か？親殺しは重罪？結婚していないカップルの子はどう扱われる？女子にのみ課される再婚禁止期間はどうか？		
第5回	政教分離と信教の自由は矛盾しないか？		
第6回	表現の自由の限界—プライバシー、名誉棄損、喧嘩言葉、差別的表現		
第7回	メディアの取材の自由はどこまで認められるか？放送法の「公平性原則」と表現の自由		
第8回	やりたい仕事はなんでもできる？職業選択の自由とその規制		
第9回	社会権はどこまで経済的自由権を制約できるか？		
第10回	死刑は「残虐な刑罰」にあたるか？		
第11回	国民に主権があるとはどういうこと？		
第12回	国会議員は何故、高い給料がもらえる？		
第13回	内閣総理大臣は実は強力な権限を持っている！		
第14回	裁判所の違憲立法審査権と民主主義は矛盾しないか？		
第15回	地方の時代とは言うけれど…「地方自治の本旨」とは？		
第16回	期末試験		
テキスト	芦部信喜 高橋和之補訂『憲法 (第6版)』(岩波書店) 六法は必ず持参してください。		
参考文献・資料	授業中に適宜必要な資料を配布します		

成績評価の方法	期末試験 (40%) 授業内テスト (45% 3点×15回) レポート1回 (15%) <u>欠席数が5回以上の者については、評価しません。</u> この点はいかなる者のいかなる事情も考慮しません。 部活、学校行事、病気、家庭の事情などでも認めません。また授業外学習支援への出席を本講義への出席に振り替えることはありません。 授業に実質的に参加していない者は欠席とします。
オフィスアワー	月曜日の1限 月曜2限 その他の時間でも質問や相談したいことがあれば極力応じます。
学生へのメッセージ	勉強に躓くのは、比較的早い段階でのことが多いです。疑問が生じたら遠慮せずに質問しにきてください。

科目名	民法入門	科目分類	■専門科目群（第1グループ） □総合科目群（第2グループ）
			法律 学科 ■必修 □選択
			学科 □必修 □選択
英文表記	Introduction of Civil Law	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年
ふりがな	たかはし ゆうすけ	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中
担当者名	高橋 佑輔	修得単位	2 単位
授業のテーマ	民法の学習内容についてのハイライト		
授業概要	レジュメ等で配布する事例を通じて民法規定と問題点について考える。 民法の主要論点に関するハイライト講義。		
到達目標	民法で問題となる点のイメージを持つことができる。		
授業時間外の学習	講義で扱った範囲についてテキストを読んで復習する。		
履修条件	特になし。		
授業計画			
第1回	第1回 ガイダンス・民法とは		
第2回	第2回 なぜ権利と義務は発生するかー		
第3回	第3回 どういったとき契約は無効・取消となるかー		
第4回	第4回 他人に契約交渉の依頼はできる？ー代理ー		
第5回	第5回 時間が経つと権利は取得できる？時間が経つと義務は消滅する？ー時効ー		
第6回	第6回 物の支配とはー所有権ー		
第7回	第7回 不動産物権変動と登記ー		
第8回	第8回 担保とはなにかー抵当権ー		
第9回	第9回 借りたお金を返済できなかつたらー債務不履行ー		
第10回	第10回 他人の借金を保証したらー保証債務ー		
第11回	第11回 契約を止めたいー解除ー		
第12回	第12回 自動車事故と損害賠償ー不法行為ー		
第13回	第13回 親子関係の確定ー親族ー		
第14回	第14回 相続の諸問題ー相続ー		
第15回	第15回 まとめ		
第16回	第16回 定期試験		
テキスト	リーガルベシス民法入門（道垣内弘人，日本経済新聞出版社）		
参考文献・資料	講義内で適宜指示する。		
成績評価の方法	定期試験の成績（70点）に出席状況（30点）を加味して最終評価する		
オフィスアワー	火曜5限，金曜3限		
学生へのメッセージ	事例等を通じて民法の規定や論点の意味を理解し，今後の学習に生かしてください。		

科目名	刑法入門	科目分類	■専門科目群 (第1グループ) □総合科目群 (第2グループ)	
			法律 学科	■必修 □選択
			学科	□必修 □選択
英文表記	Introduction to Criminal Law	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年	
ふりがな	あきやま えいいち	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	秋山 栄一	修得単位	2 単位	
授業のテーマ	刑事法のトピックについてのハイライト			
授業概要	刑法を中心とした刑事法分野の主要トピックについてのハイライト講義である。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃、マスコミなどによって報道される事件等を刑事法の視点から考えることができる ・刑事法関連科目へのスムーズな移行をめざす 			
授業時間外の学習	まず、指定されたテキストを一度は必ず一通り読む。それを踏まえ、次回の講義の単元を読んで講義に臨む。併せて、日々の刑事事件等の報道に関心を持ち、社会の出来事に目を向け、耳を傾けること。			
履修条件	特になし			
授業計画				
第1回	ガンダンス、刑事法とは何か？			
第2回	犯罪と刑罰について考える～刑法の特徴			
第3回	これも殺人事件か？～実行行為			
第4回	飲酒運転による殺人？～故意と過失			
第5回	咄嗟の行動にあなたは？～正当防衛と緊急避難			
第6回	責任無能力者は犯罪ができない？～心神喪失と心神耗弱			
第7回	人の始まりと終わり？～生命と刑法			
第8回	書店での立ち読みが犯罪？～財産犯			
第9回	ネット社会とポルノ～わいせつ罪			
第10回	疑わしい？～刑事手続きと被告人の利益			
第11回	冤罪事件とは？～捜査と公判			
第12回	市民の司法参加とは？～裁判員制度			
第13回	人はなぜ犯罪を犯すのか？～犯罪原因論			
第14回	少年は特別な存在？～少年法について			
第15回	まとめ			
第16回	定期試験			
テキスト	佐久間修・高橋則夫・宇藤崇『いちばんやさしい刑事法入門』〔第2版〕有斐閣 2007			
参考文献・資料	適宜、講義にて紹介する。			
成績評価の方法	試験を70%、出席10%、小テスト10%、授業態度等を10%の割合で、厳正に評価する。			
オフィスアワー	原則として、月曜2時限目(10:40～12:10) 木曜5時限目(16:20～17:50)			
学生へのメッセージ	指定テキスト・最新の六法・ノート・配布レジュメを必携のこと、また積極的な講義参加を望む。			

科目名	生活と政治 I	科目分類	<input type="checkbox"/> 専門科目群 (第1グループ) <input checked="" type="checkbox"/> 総合科目群 (第2グループ)	
			全 学科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
英文表記	Political Science I	開講年次	<input type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年	
ふりがな	しかたに ゆういち	開講期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中	
担当者名	鹿谷 雄一	修得単位	2単位	
授業のテーマ	政治をめぐる諸問題を理解する。			
授業概要	政治学の入門となる講義です。ニュースや新聞等で日常的に報道される政治について概説するとともに、政治が必要とされる理由や政治をめぐる環境・動向についてひも解いていきます。また、事例やテーマ・トピックを踏まえて、政治について自分なりに考えるなかで政治と社会に対する理解を深めていきます。			
到達目標	政治をめぐる基礎的知識を習得・理解し、選挙の必要性や政治家・政党・マスメディア等の役割・影響を説明することができる。			
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回、小課題か小テストのいずれかを実施しますので、その準備として予習・復習をしてくること。 ・ 政治や社会に関する新聞記事やニュースに常に関心を払うこと。 			
履修条件	特にありません。			
授業計画				
第1回	イントロダクション			
第2回	「政治」とは何か			
第3回	投票の必要性			
第4回	投票の決定要因			
第5回	マスメディアが政治に与える影響			
第6回	マスメディアがつくる政治意識			
第7回	政治家という職業			
第8回	政治家の資質			
第9回	政党の役割			
第10回	政党による政治の功罪			
第11回	政権交代			
第12回	集団が政治に与える影響			
第13回	戦後政治をめぐる国際的環境			
第14回	国際社会における日本			
第15回	失われた10年			
第16回	定期試験			
テキスト	伊藤光利編『ポリティカルサイエンス事始め』(有斐閣)			
参考文献・資料	川出良枝・谷口将紀編『政治学』(東京大学出版会)、北山・久米・真淵『はじめて出会う政治学』(有斐閣)のほか、適宜紹介します。			
成績評価の方法	期末試験(50%)、課題レポート(20%)、小課題・小テスト(30%、講義への貢献度を含む)として総合的に評価します。 ※課題レポートは、必ずしも正解がない発想力を問う内容で、学期の半ばに課題を発表します。 ※講義への貢献度は、授業内での発表や取組姿勢であり、受講マナーを守れないと減点されます。			
オフィスアワー	毎週火曜日 14:40~16:10・水曜日 14:40~16:10			

学生への メッセージ	新聞やニュースなどで政治のみならず、社会の動き全般について広く関心を払うよう努めてください。 各種試験対策にも役立つよう工夫します。
---------------	---